



尾羽の硬さに定評があります

番匠か？ 武道家か？

amiharinomoroikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomoroikimonotachi amiharinomori

体が道具の“オオアカゲラ”

夕方にはまだ少し早いある日の午後、音もなく細かな雪が降り続く森の中でオオアカゲラに出会いました。風はなく「シーン」という音も雪が吸い込んでしまうような静けさの中“タン、タタン…”と不規則に鑿(のみ)で木を彫っているような鈍い音が数メートル先から聞こえてきました。カラ類やコゲラなどがつつく音は耳を敬てないと聞き取れませんが、この時は離れているのに力強い音が聞こえてきました。出会う機会の多い「アカゲラかな？」と辺りを探してみると、こちらには目もくれず一心に木をつついてるキツツキを発見。アカゲラの背中にある特徴的な逆ハの字の白い模様は見当たらず、お腹も白ではない上、体は少し大きい…「オオアカゲラだ!」、普段なかなか出会えないこともあり気持ちが高鳴りました。どんよりの天気、他に人影はなく観察には好条件です。鋭い爪で凸凹になった幹にとまり、アカゲラより少し長い嘴で激しく木をつつき、大きく前後する上半身は硬い尾羽がしっかり支えるなど機能的な体は道具そのもの。見えないところでは、頭蓋骨の一部はスポンジ状で衝撃が緩和されるとか。枯れ木などに穴をあける森の番匠であると同時に、一連の動きには無駄がなく武道家のようにでもあり、その巧みさに感じ入った出会いとなりました。

What is “Ooakagera”?

「山地に棲むキツツキ」

キツツキ科
全長：約 28cm
分布：北海道～奄美大島

留鳥で山地の林に分布する。雌雄はほぼ同色で頭頂はオスが赤く、メスは黒いが幼鳥では雌雄共に赤い。昆虫類を好んで食べ、秋から冬には木の実も食べる。枯れ木に巣穴を掘ることが多いが、枯れていない大木や太い電柱に営巣することもある。数はあまり多くない。

(参考図書：「日本の野鳥 650」他)

amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomoroikimonotachi amiharinomori amiharinomori



「網張の森」の“旬”を紹介してきたこのコーナーも、今回で最後となります。森羅万象が紡ぎあい循環している素晴らしさの一端を、改めて感じさせられました。

3月1日 10日 20日 31日 4月1日 10日 20日 30日

雪氷

積雪 (10~105cm) 積雪 (24~65cm) 積雪 (0~51cm) 積雪 (0~23cm) 積雪 (0~1cm)

年によって積雪量の振幅大、どか雪も 樹々の根開きが加速 雪上に黄砂等の不純物が目立つ

テンヤウサギ、リス、カモシカの足跡



ヒガシニホントカゲ ヤマアカガエル産卵

※ツキノワグマの足跡が見られた年もあり

ハクセキレイ カケスの群れ  ウグイス初鳴き

マヒワやマガン等の渡り鳥の北帰行



エルタテハ マイマイガ スコットカメムシ ビロードツリアブ

カラ類 ゴジュウカラ キツツキのドラミング

フキノトウ開花



ミズバショウやキクザキイチリンソウ開花

ヤマネコヤナギ開花

イタヤカエデやハウチワカエデ開花

確認

例年この時期、雪上を歩く際は“輪かんじき”の出番が多いのですが、暖冬の今年はスノーシューの着用率が高いです。積雪量の計測のためプローブを雪原に刺すと、柔らかい新雪の下に固い根雪の層がある事がよく分かります。



森の掲示板

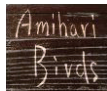


フキノトウは東北地方の方言で“バクケ”と呼びます。語源を調べたところ、「お化け」説やアイヌ語で「パクケ(はじける)」「パ・ケ(岸を削る)」等が考察されていました。あと、雄の株を“ジッケ”と呼ぶ人もいます。

まもなく待ちに待った“スプリング・エフェメラル”の到来です！長い冬を乗り越えた生きものたち、その命の躍動を祝福すると共に、元気を分けてもらえるのが楽しみです。新しい季節に、いい出会いがあるといいですね。



さあ、“春の妖精”を探しに出かけましょう！



アミハリ・バーズ Vol. 56

メジロ

科名：メジロ科
全長：約 12cm
生態：留鳥または漂鳥
(北日本では夏鳥)
分布：全国



チーチー、
キリキリ、
チュールチュール…

昨年、ハッコヤナギの開花に合わせ、それを目当てに下から上がってきたメジロの群れを見かけました。メジロは甘いものに目がなく、蜜を吸いやすいように舌の先端がブラシのように分かれているそうです。以前、ウグイスと混同された事があるメジロですが、どちらも春を告げる存在として親しまれてきた小鳥たちです。

「山小屋に憩う」(6)

不動平避難小屋の39年 阿部ひろあき

撮影：令和3年5月
不動平避難小屋

憩いのひととき

小屋管理作業の休憩時は、まさに「憩いのひととき」。天候が良ければ小屋前に集い、おにぎり等を食べながらの談笑。貴重な情報交換の場であり、楽しいひとときだった(写真29)。



(写真29) 小屋閉め作業の昼食休憩
平成20年10月

歴史的遺産等保全対策

山頂付近の歴史的遺産等の保全作業については一部紹介済みだが、山頂お鉢の道標復元建立を追記したい。

その道標は高183cm、幅22cm、厚23cm(推定重量約230kg)の石柱。正面に「向正面下ル奥宮参道 向左御鉢廻り」、右側には「稗貫郡大澤村協賛会小原○○」、左側に「昭和四年八月建立 吉萬講社入講記念」とある。山岳信仰の歴史を物語る貴重な遺産の一つ。場所は柳沢口取付(一升目)付近、お鉢歩道から10mほどもすり落ちていたもの。平成14年6月30日に、当時の県職員等ボランティアメンバーのほか、一般登山者の協力も得て総勢約12名。道標にロープを掛けて総力でやっと引き上げることが出来た(写真30)。我々が所定の位置に復元建立出来たことは、先人たちの想いを後世に伝える貴重なお手伝いになったと思う。全員大満足の様子だった。(写真31)。



(写真30) 道標引き上げ作業



(写真31) 道標復元建立完成

〈余談③〉 不動平公衆便所～胆を冷やした女子個室

ある日の掃除での体験。女子トイレ入口。いつものように大声で「誰かいますか？掃除です」と声掛け。返事無し。早速、掃除のため各個室を開けようとしたら、ロックが掛かっている個室があった。ドアを強くノックしても反応無し。中で誰か倒れているのではないかと仲間と一緒に心強いが俺一人。不安で胸が高鳴った。合鍵は無い。しかし放置できない。止むを得ず、荷物仮置き棚を足場に、こわごわ天井梁の隙間から覗いた。誰もいない。正直ホッと

した。出る時にドアノブのロックボタンを押したまま閉めたらしい。苦労して内部に入り解錠した。しかし、これが一度ならず二度も。そこでロックボタンを押せないようにガムテープで処置し、代わりに簡単な内鍵を取り付けた。男子個室ではこのような事例は無い。女性の習性なのだろうか？

小屋管理引継ぎ

平成17年末に建て直された現在の避難小屋(三代目小屋)の維持管理のうち、小屋開きや小屋閉め作業等は我々岩手山地区PV有志に任されてきた。しかし、その仲間たちも高齢化に伴い岩手山登山自体が厳しくなり、小屋管理等が難しくなることから、令和4年度末をもって県山岳SC協会に引き継いだ。

引継ぎは現地での共同作業。小屋開きと小屋閉めを実施した。

小屋開きは例年通り、連休初期に夏季出入口開放のため、我々だけで除雪作業を実施した(写真32)。県山岳SC協会との共同作業は連休後になった。この時は小屋周囲の残雪は消えていたので、各窓の覆い板等収納や雨水集水装置の整備、小屋清掃などを実施。メインは不動平から奥宮一帯のロープ新品への交換作業だった(写真33)。



(写真32) 引継ぎ直前除雪作業を終えて



(写真33) ロープ交換作業

実施。新雪の中での作業も手際良く進められ、無事引継ぎは終了した(写真34)。翌年(令和5年)からは県山岳SC協会の作業に我々岩手山地区PV有志数名が応援の形で参加している。



(写真34) 小屋閉め引継ぎ共同作業

おわりに

39年間にわたる不動平避難小屋等のボランティア管理を無事完了出来たのは、ひとえに仲間たちの協力の賜物であった。この間、登山者や山岳関係者との交流を通じて山仲間としての絆も深まったことは、私にとって忘れ難い思い出になるだろう。これまで不動平避難小屋に関わった全ての方々に感謝して稿を閉じる。

(終わり)

(画像提供：岩手山地区パークボランティア)

雪どけの早い早春

3/9「雪の鎌倉森をめざす」 (冬山登山体験)



ガッチリしまった雪の上に大量の雪が降り、滑りやすい状況であったため、今回は山頂までは行かず大ブナ平をピークとし、マザーツリーを経由して下山するコースに変更。静かに雪が降りしきる中、個性的な姿をしたブナの大木が並ぶ森は見応えがあり、標高によって変化する樹種、樹木の間隔、樹形や幹の太さの違いなどを観察しながら進みました。「冬の森の様子も素敵だった」「いつか山頂に行ってみよう」参加者感想より。総勢 29 名

大好評！「網張の森雪上ハイキング」



1 月から毎週土日に開催しているミニ企画の「網張の森雪上ハイキング」。地元の方はもちろん、遠方の雪の少ないエリアの方の参加もあり、積雪期の網張の森を楽しんでいただいています。「冬芽や樹木などに注目したのは初めて。自然は面白い！」参加者感想より。

インフォメーション

4/7「根開きのブナの森で春をさがそう」

9:30～13:30 網張ビジターセンター集合
定員：15 名 ※要事前予約
参加料：大人500円 小学生以下300円
(スノーシューレンタル別途100円)

5/6「鞍掛山麓 花愛でるハイキング」

9:30～14:30 たきざわ自然情報センター集合
講師：工藤 宏 氏(岩手植物の会)
定員：15 名 ※要事前予約
参加料：大人800円 小学生以下400円
共催：滝沢市・滝沢市山岳協会・
(一社)滝沢市観光物産協会

毎週土日開催「ミニ企画行事」

10:00～11:00 網張ビジターセンター集合
内容：「森林浴散歩」や「生きもの探検隊」等、
網張の自然とふれあう行事
(毎月 HP・FB に掲載)

定員：各7名 ※要事前予約
参加料：一人400円

1/31・2/21 ウェスタルクラブ 「網張の森雪上ハイキング」



普段から様々なスポーツを楽しんでいる盛岡市のウェスタルクラブの皆さん。モモンガの食痕やフンなども観察し、網張の森で活動している野生動物にも思いをめぐらせながら雪景色の森を歩きました。延べ 18 名

「モモンガライブラリー」紹介

ビジターセンターには自然に関する本がたくさんあります。信濃毎日新聞社出版の「葉でわかる樹木」と「花実でわかる樹木」は樹種を調べる際に大変参考になります。似ているようで樹種ごとに微妙に形態が違うものを、謎解きのように調べるのも楽しいです。モモンガライブラリーの本は貸出もしています。是非ご利用下さい。



ミニプラス

1/27「イグルー作りに挑戦」



イグルーは圧雪ブロックを使って作る「かまくら」のようなものです。2 班に分かれ、パークボランティアと協力しながらそれぞれ違う方法で工程を進め、お昼前には立派なイグルーが完成しました。総勢 14 名

3/16「大木巡りツアー」

積雪期は普段行くことのできない森の奥に入ることができます。ツアーでは、森の奥に佇む大木に注目して歩き、大木の幹回りを測り、おおよその樹齢を推理しました。また、樹高を測る道具を使って、網張の森の木々は約 18m の高さで揃っている事などを調べました。総勢 9 名



◆◆現在開催中のビジターセンター企画展◆◆ 3月1日(金)～4月30日(火)

—工藤 正典 写真展—「岩手山花景色」



岩手山は、春夏秋冬、東西南北、いつどこから見ても美しく絵になります。その美しい姿を、里や近隣の山から見る岩手山と花のある風景として撮り続けていました。昨年 10 月に手作りの写真集「岩手山花景色」としてまとめたのを機に、その内容を展示することになりました。私たちが日頃親しんでいる岩手山と花たちとのコラボを楽しんで頂ければ嬉しく思います。 - 出展者の言葉(一部抜粋)より -

モモンガのつぶやき

令和 5 年 1 月 48.9 cm、2 月 60.3 cm。令和 6 年 1 月 44.8 cm、2 月 29 cm。これはビジターセンター北側の法面に設置している積雪計にて計測している積雪深月平均の数字です。暖冬と言われて久しくなりますが、今冬は顕著で来館者からも「雪が少なく生活面では楽だが、農作物への影響が心配だ」との声が多数聞かれました。動植物への影響も大きいでしょう。様々心配ではありますが、よいニュースもありました。ブナの冬芽がふくらみ膨らんでいました。冬芽の中で雄花と雌花がしっかり準備されているのです。大凶作だった昨年のブナ。今年はたくさんの実りがありますように。(C) (画像提供：大堀 拓 氏)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 1 月 1, 150 人 ◆ 2 月 1, 330 人
朝 9 時のビジターセンター平均気温 ◆ 1 月 -5.5℃ ◆ 2 月 -5.4℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期 (11 月から 3 月末まで) 9 時～17 時 毎週火曜日休館